

高校進学ガイド(3)

大学進学・大学入試 — 大学受験は高校受験より難易度が高い —

高校生活の中で大きなウェイトを占める大学進学準備。ここから目を逸らして充実した時間をおくることはできません。ぜひ、正面から向き合っ、高い目標に向かう日々を過ごしてください。大学入試には、高校入試とはちがう特徴があります。それを理解したうえで、志望校の選択、勉強のしかた、高校生活のバランス、予備校や塾の利用法を考えましょう。

1. 大学は高校より多様である

世界の広がりという意味で、中学から高校でみなさんはジャンプしました。しかし、高校選びそのものは、生活圈・通学圏の範囲からの選択だったと思います。

大学入試では、その限界をさらに超えていくこととなります。皆さんの自立も視野に入れれば、全国にあるすべての大学が選択肢になります。また、地域だけではなく、内容の幅も格段に広がります。高校の種類は、ごく一部の特殊な領域

を扱う学校を除けば、大学へのアプローチ方法の違い（進学校・付属校）、指導理念や管理の度合いなどによるものです。しかし、大学・学部選びの場合は、学びの中身や方向性が根本的に異なっているのです。さらに、海外の大学すら進路として考える人も出てきます。

大学を選ぶだけでも、個人としての軸となる考え方が明確でなければなりません。

2. 大学は将来の自分に直結する

どの大学を選ぶかは自分の将来に直結します。医者になるには医学部に入らなければならないように、いくつかの職業は完全に大学からのスタートとなりますし、そこまで固定的でない場合でも、自分の進みたい方向に適した環境を持つ大学に通うことで、その先の道が拓けてきます。「どうすればいい

かわからない」「やりたいことが特にない」などといっている間にも、文系・理系の選択、学部選択と、決めなければいけない日程は次々と訪れます。流されるままではなく、自ら選び取っていく人の方が、一般的に志望校へ到達する確率が高いことは言うまでもありません。

3. 大学入試は高校入試より難易度が高い

みなさんは厳しい高校入試を突破してきました。そこで得た自信は大学入試で自分を支えてくれることでしょう。しかし、競争の熾烈さを客観的に評価すると、大学入試の方が上回ると言わざるを得ません。

それには3つの理由があります。

(1) 地方の高校生が参入する

高校入試は、県内あるいは隣接する県の中での競争でした。スポーツで言えば関東大会レベルです。しかし、大学入試は全国規模になります。地方の公立高校には学業に厳しい学校が多く、実力ある受験生を多く育てています。彼らの中でも上位の生徒が国立大や首都圏の難関大の受験に参入してくるわけですから、合格へのハードルは高くなります。

(2) 中高一貫校生が参入する

中高一貫の進学校は、優秀な生徒を集め、6年計画で大学受験に備えています。こうした学校の生徒たちは、皆さんより1年以上早く中高の学習範囲を終了し、残された時間を受

験準備に没頭できるのです。ハイレベルな大学で、みなさんは彼らと渡り合わなければなりません。

(3) 浪人生が参入する

一度受験を経験し、跳ね返された経験を持つのが浪人生。現役合格全盛時代に自らの意思で再チャレンジを選んだ彼らは、堅い決意を原動力として、1回目の反省を生かして1年間受験勉強に専念します。多科目の国立大、各科目の詳細な知識の習得度合いが勝負を分ける難関私立大の双方で、浪人生が優位に立つのは明白です。

もちろん、みなさんの高校受験も価値ある経験です。しかし、それがいわば地方予選で、シード校の出場しない同世代のみに限定された競争であったという事実ははっきり認識しておく必要があります。より強力なライバルたちと相まみえる場、それが大学入試なのです。

目標とする大学に現役で合格することが、口で言うほど易しくないことは、これでおわかりいただけると思います。高

校受験生の優位性は、競争に備えて磨き抜かれたことによつて、入学時点での学力レベルが高いことですから、それを生

かすために、気持ちを切り替えて早いスタートを切ることが最重要の課題となります。

大学受験に向けて 一学校も塾も使いこなす一

夢への具体的な第一歩となる大学受験。その厳しい試練にどう立ち向かえばいいのでしょうか。現役合格をめざすために必要な5つのポイントがあります。

1. 自分の将来を具体的に考える

通っている高校によっては、1、2年から科目の選択や、文系・理系の選択をすることになります。そういうときに「楽そうだから」とか「その場の気分で」という選び方をしているようではいけません。3年後の大学受験で自分がどんな方向をめざすのかよく考えて、合理的な決定をするようにしましょう。

そのためには、一度「自分の将来・めざす職業」について考える必要があります。入学前の時間はそれに最適です。先延ばしせず、ぜひ実行してください。

なお、当面高校で選択がない人の場合も、塾の利用方法などを考えるうえで、大学受験への見通しは欠かせません。同じ条件だと理解してください。

2. 学校の戦略を知る

自分の通う高校がどんな指導理念をもち、いかなる指導システムを採用しているかは、皆さん自身の勉強のしかたに深くかかわってきますから、きちんと把握していなければなりません。

それを教えてくれるのが3年間のカリキュラムであり、入学直後のオリエンテーションです。それらを通して、学校のターゲット(主にどこの大学を意識しているか)、指導理念(教

養主義か、選択主義か)、サービスのメニュー(企画講座、季節講習等)などについて、正確に理解しましょう。

中学までは指示通りに勉強しているだけでも、真面目でさえあればそれなりに結果を出すことができましたが、高校では、学校であろうと塾であろうと、自分の意思を持って使いこなす発想が必要なのです。

■ある学校の教育課程表■

まず、学校のカリキュラムがどうなっているか、選択科目には何があるかを確認しましょう。そこから、受験勉強計画の立案は始まります。(表中の丸付き数字は単位数を表します。)

1年		2年		3年	
国語総合 ⑤	現代文 ②	英語Ⅱ ③	現代文 ①	【選択科目一覧】	
日本史A ②	古典 ③	ライティング③	国語総合 ①	古典 ②	物理Ⅰ ②
現代社会 ②	世界史A ②	家庭基礎 ②	体育 ③	古典講読 ②	化学Ⅱ ④
数学Ⅰ ④	地理A ②	/	リーディング⑤	世界史B ④	化学Ⅰ ②
数学A ②	数学Ⅱ ③		選択科目 ⑱	日本史B ④	生物Ⅱ ④
生物Ⅰ ③	数学B ②			地理B ③	生物Ⅰ ②
体育 ③	理科総合A ②			倫理 ②	地学Ⅰ ④
保健 ①	情報A ①			誠治・経済 ②	地学Ⅰ ③
芸術Ⅰ ②	物理Ⅰ ②			数学Ⅲ ④	体育 ②
英語Ⅰ ④	化学Ⅰ ②			数学Ⅰ ②	芸術 ②
オーラルⅠ ②	体育 ②			数学Ⅱ ②	オーラルⅡ ②
情報A ①	保健 ①			数学Ⅱ ②	時事英語 ②
				数学C ②	
				物理Ⅱ ④	

3. 入学と同時にスタートする

高校受験生は、大学受験の世界で決して有利なポジションを占めているわけではありません。「少しぐらいのんびりしていても大丈夫だろう」などと思った瞬間に黄信号が点灯すると考えてください。

まず、高校対応型の学習スタイルを早期に確立することです。入学から1か月ぐらいの間に、平日・週末をどう使うかなど試行錯誤して、新しい生活にフィットする自分の流儀をつくりあげましょう。前提は毎日勉強すること。学校の図書

室や塾の自習室なども視野に入れると、勉強の時間が確保しやすくなります。

では、ここまでの大切なポイントをまとめておきましょう。次のようになります。

- ・最初の定期テストで好成績を収める。
- ・1年の勉強は高校3年間の土台。必ずしっかり消化する。
- ・好成績の目安は学年で10%以内。

4. 学業≧部活+課外活動の原則

部活やさまざまな行事は高校生活の華。楽しみや喜びのもとになるだけでなく、心と体を鍛え、多くの人と協力する中で自分を生かしていく術を学ぶ貴重な機会でもあります。その価値はきわめて高いのですが、大学受験をめざす勉強とは時間を取り合う関係にあるのも事実です。参加については原則として自由ですから、のめり込み過ぎてしまったとしても、誰も歯止めはかけてくれません。自分でコントロールするしかないのです。

そこで、次の原則を守ってください。

学業≧部活+課外活動

学業と部活・行事の両立は、簡単に口にはできないくらい困難な力技。でもやりがいのあることですし、現にそれを実行し、みごとに現役合格を果たしている先輩も存在します。

5. 塾を上手に利用する

大学入試では予備校や塾が大きな役割を担っています。「塾に通う必要がない」を目標に掲げる高校もありますが、現実には、難関私立高校生も含めて、受験生の大半が予備校または塾に通っています。予備校や塾の受験対策カリキュラムや情報提供力をまったくあてにせず現役合格を果たすのは、無理とは言いませんが、かなり難しいのが現実でしょう。

利用するとしたら、ぜひ上手に使ってほしいものです。最悪なのは、ずるずると通塾の決断を引き延ばしているうちに状況が悪化し、ほとんど手遅れになってから「なんとかして

ほしい」と駆け込むこと。これでは成果があがるはずがありません。

まず高1スタート時から塾に通うことを決断しましょう。そして、最初は必要な科目に受講を絞り込むなど無理のない形を整えて、受験勉強を始めることをお奨めします。実際に始めてみると、受験の情報がいろいろ入ってくるようになり、大学や自分のことが見えるものです。それがとても重要なのです。